

園芸タイムリー情報
《5月中・下旬版》

令和4年5月18日発行 第1号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

全作物共通

天気は数日の周期で変わり、平均気温は高く、降水量・日照時間はほぼ
平年並みの見込みです。

- ①この時期は、気象の日変化が大きく、急な強風、低温や降霜があるため、
気象情報に注意しましょう。
- ②ハウス内は温度変化が大きく、昼夜の気温差が大きいため、高温障害や
低温障害に留意しましょう。換気を十分に行うとともに、換気時間に注
意し、夜間の温度が確保できるようにしましょう。
- ③ほ場の準備が遅れている場合は、苗の順化や適切な養水分管理を行い、老
化苗にならないよう注意しましょう。

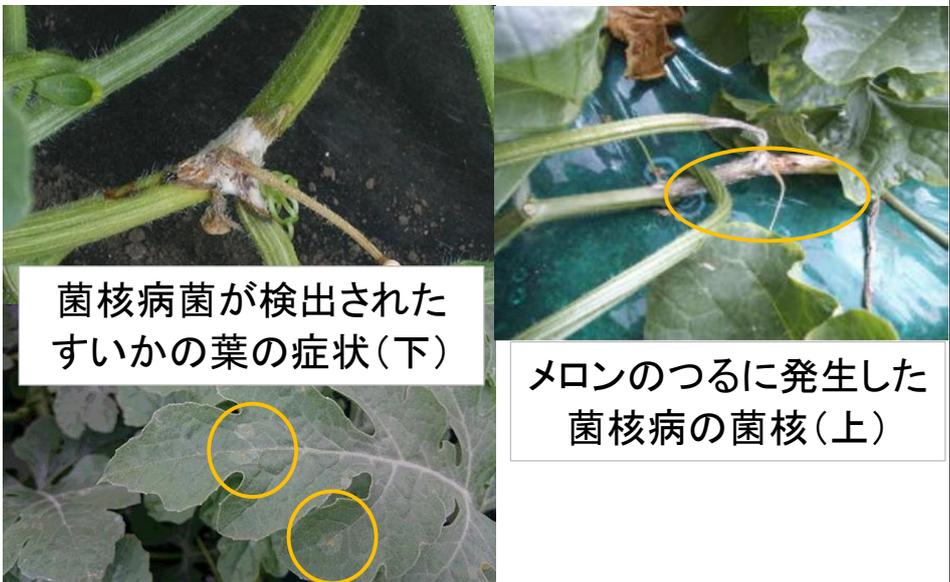
※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前
日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆育苗ハウス内で農薬をペーパーポットやセルトレイにかん注処理または、粉剤や粒剤
を処理した場合は、後作物の栽培を避けましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、
適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、
愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和4年5月1日現在の登録内容となっていますので、
活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■
【農作業安全編】
—農作業を安全に行うために 作業前の対応—

- 作業予定を事前に確認し合い、無理のない作業計画を立て、事故防止に努めましょう。
- 一人での作業はできるだけ行わないようにしましょう。
やむを得ず一人で作業する場合は、作業内容や作業場所を家族等に伝えておく、
携帯電話を必ず所持する等、事故が発生した場合の早期発見のために必要な措置を
行いましょう。
- 緊急時に備え、作業員全員にエンジン停止方法や作業機械の動力遮断方法を周知
しましょう。
- 作業機械の調整・点検・清掃等を行う際は、必ずエンジンと作業機械の停止を確認
してから行いましょう。

作物名	すいか・メロン	
病害虫 生理障害名		
菌核病		
発生状況		
少発生		
発生時期		
5/上旬～	<p>菌核病菌が検出された すいかの葉の症状(下)</p> <p>メロンのつるに発生した 菌核病の菌核(上)</p>	

発生の状況・要因

- ・ つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。
- ・ 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。
- ・ すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。

対策

- ・ 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- ・ 着果期前より予防防除を実施する。
- ・ 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。

＜防除の一例＞

●スミレックス水和剤

すいか 1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内
 メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※スミレックスくん煙顆粒は、メロンには登録がなく使用できません。

●カンタスドライフロアブル

すいか・メロン：1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

あぶらな科野菜全般

病虫害
生理障害名

コナガ成虫

コナガ

発生状況

発生に注意

発生時期

5月下旬～



コナガ幼虫



幼虫による葉の被害

発生の状況・要因

- 幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。
- 比布町では4月11日（平年比7日早）に成虫の初発が確認された。
- 全道的に成虫の初発は平年より1～2週間程度早いことから、幼虫の初発も平年より早まることが予想される。

対策

- ほ場の観察に努め、初発を逃さないよう防除を開始する。
- 防虫ネット（目合い1.0mm）を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。
- 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。
- シアミド剤の防除効果の低下事例が確認されているため、複数系統の薬剤を用いたローテーション防除を実施する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	たまねぎ	
病虫害 生理障害名	発生初期の症状 	
ネギハモグリバエ		
発生状況	 ←発生拡大後の様子	
発生に注意		
発生時期		
5月下旬～		

発生の状況・要因

- 第1回目の発生は5月下旬頃からとなる。
- 発生初期は葉身部に縦並びの白色小斑点（写真上）を生じる（食痕・産卵痕など）。
- 幼虫がふ化し、白色すじ状の食害が拡大する（写真下）。
- 葉数の少ない株では著しい生育不良や枯死株が発生する。

対 策

- 白い線状の幼虫被害が発生してからでは、防除効果が得られにくい。
 - 5月中旬から成虫の食痕を観察し、食痕を観察したら速やかに薬剤防除を行う。
 - 葉身部全体に薬液が付着するよう、展着剤を加用する。
- ＜防除の一例＞
- リーフガード顆粒水和剤 1,500倍 収穫3日前まで 3回以内
 - ベネビアOD 2,000倍 収穫14日前まで 3回以内
 - ※ いずれの薬剤も展着剤を加用する（まくぴか 5,000倍）。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

りんご

病害虫
生理障害名

黒星病

発生状況

発生に注意

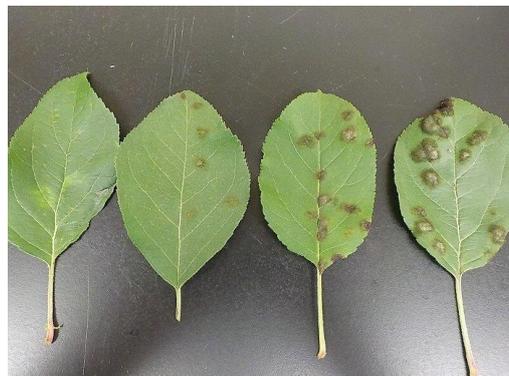
発生時期

6月上旬～

被害葉（葉の裏）



被害葉（葉の表）



発生の状況・要因

- 葉や果実に発生し、平均気温15～20℃で多雨のときに多発する。
- 葉では、落花後頃から緑褐色または黒緑色の円形の病斑を生じる。症状が進むと、写真右のように複数の病斑ができ、葉が波打つ。
- 果実では、はじめ、数mmのすす状の斑点が見られる。発生から日数が経つと病斑部の組織はコルク化する。

対策

- 被害葉は集めて処分する。
- 落花後は10日間隔を目安として薬剤散布する。
- 曇雨天が続く場合には、防除間隔を短くする。
- DMI剤、QoI剤の耐性菌が確認されているので、薬剤選択については、普及センター、JAまで相談すること。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。